

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3373800386 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 千寿福祉会 | | |
| 事業所名 | グループホーム 百 | | |
| 所在地 | 岡山県久米郡美咲町書副 180-4 | | |
| 自己評価作成日 | 令和 5 年 3 月 7 日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3373800386-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------|
| 評価機関名 | 株式会社ランチピース |
| 所在地 | 岡山県岡山市中区江並311-12 |
| 訪問調査日 | 令和 5 年 3 月 23 日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「今この時を大切に」「今が楽しい」を念頭に「第二の家」として御家族、ご本人が「どこよりもここで暮らせて良かった」と生活を楽しみ満足して頂ける様、職員間で思いを共有し支援しています。又、ご本人にも出来ることはして頂き、出来ない部分は一緒にいき、達成感や喜びを感じて頂ける様、自立した生活をして頂きたいと考えています。その実現に向けて、職員一人ひとりがプロとしての自覚を持ちスキルアップに努め、認知症の周辺症状の緩和、体調管理、ご本人らしく生活できる居場所作りの支援に努めています。高齢化に伴い、ターミナルケアに対しても御家族の意向に百で出来る限りの支援を行っていかうと考えています。コロナ禍もあり、面会、外出、外での食事など、色々な場面に制限がありましたが、少しずつ緩和もあり、以前の様に百内外を通して潤いのある生き生きとした生活が楽しめる様、支援していければと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

共有ホールにはゆったりと寛げるソファや季節の装飾があり、利用者が穏やかに個々のペースで生活できるよう配慮している。優れている点として上げられるのは、次の2点である。まず、新鮮で旬の食材を取り入れながら、3食手作りしていること。二つ目に、車椅子の移動やお盆拭きなど、残存能力を活かした支援が出来ていることがある。工夫点としては、救急活動時、救急隊員に渡す「救カード」について、利用者及び家族の意向が分かりやすく赤字で記されていることが上げられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|---|---|----------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 玄関やホールに法人理念・職務行動指針・MINDを掲げ共有・周知を図り介護の現場での実践につなげている。又、新人職員には対応時や実践を交えながら伝えられている。 | 玄関とホールに掲示し、職員に周知している。新人職員には理念をプリントして渡している。実践を交えながら、浸透を図っている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 同一敷地内の施設や地域の保育園、小中学校との交流、百の1棟2棟の交流などを地域と見なしているがコロナの影響でほぼ全ての交流を自粛(一部オレンジカフェや認知症連絡協議会参加) | コロナ禍前は、同一敷地にある同法人の事業所と一緒にカラオケをしたり、ボランティアが来訪した際に親に行ったりしていたが、現在は自粛している。認知症連絡協議会主催のオレンジカフェに行ったり、啓発活動の動画を撮影したり、美咲町の花火大会に協賛したりして、地域交流を深めている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 今年度はコロナの影響で活動自粛はあったが、通常は運営推進や行事など地域の方の参加有り。一部のオレンジカフェ、見守り支援などにのみ参加、今年度は少しづつ再開予定 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている | ご家族や民生委員の方の参加の運営推進協議会は今年度はコロナウイルスの影響で未開催だったが3月に文書にて今年度の報告(4月より再開予定)新年度は2ヶ月毎の開催か文書にて報告、サービスの向上につなげる。(一部オレンジカフェの参加) | コロナの影響で開催できておらず、実施指導により、令和4年分の報告をまとめて行った。令和5年度からは2ヶ月に1回を予定している。運営推進会議の参加メンバーには、中止の旨を伝えている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | コロナの影響で活動自粛。認知症啓発活動(マスクの配布)など地域包括や役場の方とできる範囲での活動 | 管理者が窓口となり、生活保護の関係で福祉事務所に事務連絡したり、連絡協議会で空き情報や地域情報の交換をしたりして、協力関係を築いている。また、実地指導により、事故報告をメールでやり取りする様になった。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 外部の方を招いての研修や施設内での意識付け等機会を捉えて職員間で取り組み、書面には1年分を該当検討事項無しとしていたが新年度より3ヶ月毎の開催日・参加職員などその都度記録とする。 | 日常的に拘束等に関して職員同士で話し合っているが、身体拘束委員会や研修は行っていない。新年度から3ヶ月に一回行って行く予定である。また、今後、町内会主催の高齢者虐待講義等に参加して、資料等が閲覧できる体制を整える予定である。 | 3ヶ月に一回の身体拘束委員会の実施、及び研修の開催に期待します。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | コロナの影響で研修などは活動自粛だが施設内で職員一人一人が気づきをもって声を掛け合える・注意しあえる関係づくりをしています。(3/2高齢者虐待研修参加) | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | コロナの影響で研修は中止している。成年後見を利用していた利用者の方も退所となり後見人の方と話す機会など機会は減っているがコロナも緩和されたので研修を勤めていきたい。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入所時に手続き・重要事項の説明時間を設け、改訂事項が有る場合は文書二位お知らせ・同意書を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | コロナの影響で自粛しているが運営推進へのご家族の参加・ご意見箱の設置・家族交流会・ケアプラン作成時の一言など機会をもち支援している。 | 窓越し面会時に利用者の様子を伝えたり、意見等を聞いている。面会解除に関する意見が多く、5類に移行してから説明する予定である。利用者は日常的に声かけしながら、意見や要望を聞き取っている。出た意見等は、食事メニューなどに反映している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員会議・伝達簿・普段の業務上の雑談など意見を言える機会・ツール・雰囲気心掛けている。 | 各ユニットで行う職員会議や伝達簿等を通じて、職員の意見や提案を聞き取っている。出た意見等は、洗濯回数や希望休の取得、勤務回数などに反映している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | ご家族よりねぎらいの言葉や感謝の言葉を頂いたときは職員に直ぐに伝え、研修で学んだ『褒める』を実践に取り入れ就業意欲を高めてもらえるよう心掛けている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 施設内外での研修を受ける機会には参加・日々の業務ではお互いに注意し合ったり、褒めたり出来る環境作りを心掛けサービスの質の向上につなげていけるよう配慮している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナの影響にて自粛中だが、施設内外の研修・近隣施設との交流時などを利用しサービスの向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前面談で利用するに当たり、生活歴、ご要望を伺い御本人・御家族の意向に添えるようなケアプラン作成に努め、サービスを提供するよう努めている。また、個人担当制を行わず担当の職員との馴染みの関係を築いてよりよいケアが出来る様に心掛けている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所前の面接や、面会時を利用してご家族の思いを伺いケアプランを作成し、更新時には、1表にご家族に直接希望を記入して頂き、状況変化時にはその都度ご家族に報告し連携を図る。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 御家族の要望を伺いながら状況に応じて代替えケアの可能性についても話し合いケアの向上に努めている | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 今この一時を大切に出来る事はして頂きながら、職員と共に役割を持って、笑顔の絶えない楽しい自立した生活が出来るよう支援させて頂く。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ケアプラン作成時、面会時等の機械には利用者様の日常についての報告や状況変化時には、迅速な報告を心掛け、受診時などの機会にはご家族にも無理のない範囲で先生の話や直接聞いて頂いたり、協力して頂き受診の支援や受診時の送迎支援を行っている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 職員との個人担当制を採用し、職員との馴染みを構築。面会にご家族、親戚のみにて窓越し面会の実施(事前連絡) | 電話の取次ぎや手紙、年賀状を通じて、馴染みの関係継続に努めている。また、行事等で撮影した写真を送付したり、受診の際、実家近くを通ったりして、関係が途切れない様に支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者を理解し、気の合う人同志の席を近づけたり困難な方には職員が関係を築けるよう配慮している。時にはトラブル等が発生した時には、職員が間に入って回避に努める。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 利用者死去又は回復の見込みがないため、入院継続という形で終了が多いため、契約終了後、ご家族との交流はないが、他利用者様と思い出話等の会話を通じてご本人様を偲ぶことあり。また死亡を話す不穏になる方がいる為、ご自宅に帰られたとお伝えする場合もあり。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 認知症もあり、これまでの暮らしが把握しにくい、本人の意向に添えるよう、ご家族、面会者等からの情報収集や職員間の情報の共有、関係性の強化に努め、より深いアセスメントが出来るよう心掛けている。 | 暮らしの希望等は日常生活の中で聞き取り、把握・共有している。把握が難しい時は、アセスメントシートで確認したり、入居前のケアマネージャーから情報を聞き出し、利用者の仕草や動作で把握している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所前の面談や御家族へ経歴を尋ねたり利用者様との会話の中で把握に努めたりしている。また、入所前にご家族にフェイスシートをお渡ししかけれる範囲で記入を依頼。(生活歴など) | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 定時のバイタルチェック施行。入浴時の全身観察を通して、身体状況の把握に努め、体調管理を行い、変化時の早期発見につながるよう心掛けている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人、ご家族様の希望を伺いながら生活の質の向上につながるプラン作成を心掛け、特にご家族には職員に遠慮され「特にありません」と言われる事も多いため、プランを送付する際、ご家族の欄を白紙にして、ご家族様の言葉で記入して頂けるように試みている。 | 日々の伝達簿や会話から得た情報を基に、ケアプランを作成している。ケアプランの更新は基本6ヶ月とし、計画作成担当者が行ったモニタリング結果や家族、主治医、訪問看護の意見やアドバイスを盛り込みながら、個々の状態・状況に沿った介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個々の日々の様子、状態の変化等の記録などにより、情報の共有を図り見直しにつなげている。また重要、緊急性のある情報は伝達簿への記入を行い、より早く職員間での共有が出来るよう努めている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者様、ご家族との連携を図り、柔軟な対応を心掛け、出来る限りのご要望に添えるよう取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営推進会議にて地域との交流についての検討をして、避難訓練等の実施により安全な暮らしや訪問理美容等のサービスの利用。また現在、成年後見制度利用の方退所にてなし。生活保護制度の利用もあり。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 嘱託医と連携し、適切な医療が迅速に受けられるよう支援する。また受診結果の情報はご家族、嘱託医に報告し、職員間には受診ノートに記録し、緊急性のあること、薬の変更などは、伝達簿にも記入し、情報の共有が早く出来るよう心掛けている。週1回の訪問看護とオンコールで連携している。 | 事業所の協力医がかかりつけ医であり、週1回主治医が訪問している。また、訪問看護も来訪しており、緊急時等、いつでも連絡・相談できる体制が整っている。また、24時間体制のもと、大きな病院と太いパイプがあり、安心・安全な医療が確保されている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 常に利用者様の健康管理や状態の変化に応じられる支援を実施し、協力医療機関による受診、週1回の嘱託医による往診の他、週3～4回は様子伺いに来所あり、また週1回の訪問看護体制等を整えている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 主治医との連携を図り、早期発見、早期対応を心掛け入院後もご家族、病院のケースワーカーと連携し、一日でも早く日常生活に戻れるよう配慮している。早期の入院も考慮して頂ける関係作りを整えている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 医療行為が必要でない場合は、出来る限りここで暮らして頂けるように支援し、入所前の説明時や契約時にはご家族には説明をしている。 | 契約時、看取り及び医療行為は行わない方針を家族に説明している。その際、重度化した時の対応について、確認書ももらっている。重度化した場合は、主治医から家族に説明し、今後の方針等について話し合っている。職員に対しては、伝達簿で伝えたり、直接話をしている。法人内で看取り等の勉強会があれば、積極的に参加している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | コロナ禍で救急蘇生法の研修は未開催だが、急変時、事故発生時に備えての勉強会の実施やマニュアルあり。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 緊急連絡網の作成や敷地内3施設合同訓練、隣接する施設との協力体制、消防団を交えての会議(協力体制、ライフライン断切時等)夜間職員1人体制のため、緊急時は勝手口から応援に来れるよう、鍵を預ける相互連携、協力体制が出来ている。また最近問題になっている防犯についても、監視カメラを隣接施設がメインではあるが百もカバーしてもらい、設置し安全、安心して頂けるよう実施。また災害時事業継続計画(BCP)についてもコロナ禍で中断しているが、3施設合同の研修、職員間の共有につなげていきたい。 | 夜間想定のもと、同一敷地内にある3事業所全体で火災による避難訓練を実施している。その際、利用者も参加している。避難訓練後には、設備会社立ち合いのもと、消火訓練を行っている。また、3事業所合同及び単独で作成したBCP(事業継続計画)もある。そして、ご飯やお粥、味噌汁、水などの備蓄品も豊富に揃っており、一覧表で確認できる様になっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | その人らしさ、その人なりを尊重し、尊敬を大切に、誇りやプライバシーを傷つけない言葉かけ支援を心掛け、職員間でも「あれ？」と感じた時は注意しあえるよう取り組んでいる。 | 一対一の入浴支援やドアの開閉など、利用者の誇りやプライバシーに配慮した対応をしている。また、命令口調など、その場で見かけたら注意し合っている。利用者の好き嫌いを把握し、フレンドリーな関係を心がけている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 楽しみや生き甲斐となるようなレクリエーションや役割を持って頂き、その日の気分や体調に合わせて対応を実施している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 業務優先ではなく、お一人お一人の今を大切にその人らしく日々を暮らして頂けるよう、個別支援を大切にコミュニケーションや声掛け、レクリエーションなど多く関わりを持って、笑顔あふれる日々を暮らして頂けるよう心掛けている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 更衣時等、衣類の選択や2か月ごとの理美容院の利用、入浴日以外や入浴されなかった時は体調を考慮しながら、更衣を実施しおしゃれ、衛生面の注意を図る。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 職員は家庭でしているように冷蔵庫の中のものでもメニューを考え、利用者の方にも食事前のテーブル拭き等の役割を持って頂き、1棟・2棟合同の食事も、外での食事や旬の物を取り入れ、好みの物、希望の物の購入や行事等に応じたメニューの提供を心掛けている。職員との食事もコロナ禍と職員人員不足もあり中止している。また検食も定時にて利用者の方への食事への満足度を高めるため、給食会議、メニューの開示、不定期に検食の交換などを試みて行きたいと考えています。 | 家庭のように、日々冷蔵庫と相談しながらメニューを作成すると共に、誕生日には利用者が食べたい物を提供している。また、行事食や季節メニューも用意されており、利用者が楽しく美味しく食事ができる様に工夫している。そして、月1回、利用者が好きなおやつ等をまとめて購入したり、大好物のお刺身が提供できるように取り組んでいる。コロナ禍前は家族交流会でお弁当を注文したり、毎年2回焼肉会を開いていたが、現在は自粛している。利用者の嚥下機能に合わせて、刻みやミキサー食にも対応している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 「ミズ・メシ・クソ」を念頭に1日1500カロリー、1500ccを目標として、1日の摂取量をチェック表に記入し把握する。毎月の体重測定を参考に体調に応じて提供している。特に水分は不足しがちなため、季節に応じた温度の物、種類などにも配慮し、飲んで頂くよう心掛けている。管理栄養士は在中していないが、メニューを参考にしながら肉、魚、野菜を取り入れ、バランスの良い食事を心掛けている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケア、就寝時の義歯消毒を実施し、能力に応じたケアを実施。歯科医による年1回の口腔ケアは、コロナ禍にて中止。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|--------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表により状態把握し個々に合った方法を考慮し対応している。下剤服用時や夜間のみオシメを使用するなどご本人様の自尊心を大切に車椅子利用の方もパッドは使用しているが、トイレでの排泄を目指し気持ちの良い暮らしが出来るよう支援している。 | 排泄チェック表で、個々の排泄パターンを把握している。日中はトイレでの排泄支援を基本とし、夜間は睡眠を重視している。トイレ誘導により、紙パンツから布パンツに改善した利用者もいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 起床時の冷たい牛乳摂取や入浴後のお茶提供、レク後にお茶を勧めるなど機会をとらえて声掛けし、水分をしっかりと摂取して便秘予防に努めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 週3回の入浴と入浴日以外の方、体調不良などで入浴されない方は全更衣・下清拭を実施。それぞれの好みの湯温にて入浴して頂き、リフト浴も導入し重度の方も快適な入浴が出来るよう支援している。 | 週2～3回の入浴を基本とし、一対一での入浴支援に努めている。入浴を嫌がる時は、誘い方を工夫したり、職員を変えたりして対応している。また、利用者の状態・状況に合わせて、清拭や足浴、シャワー浴にも対応している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 体調不良時等その時々に合わせて臥床したり、夜間眠れない利用者様には、日中しっかり起きて頂くよう声掛けし良眠に繋がる支援をしている。またどうしても夜間眠れない方は主治医と相談し薬を使用、休息を大前提としている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の管理は鍵に付いているボックスに管理し、服薬については個々のファイルを作成し、受診時や緊急時に使用し、変化時はその都度伝達簿を利用し、申し送りにて理解している。又与薬間違いのないよう重複チェックの仕組みを実施している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 数人でおしゃべりをしながら、洗濯物を畳んで頂いたり、お盆、お膳、テーブル拭き等、利用者様自身で「まだまだ役に立てる」と言う気持ちになって頂けるよう役割を持って頂いたり好きなテレビ番組を観たり、レクで歌やことわざ、カルタや季節に応じた折り紙を折って掲示板に飾るなどして頂き気分転換を図る。イベントはホールでの催し(食事会(寿司、ケーキ、弁当)、クリスマス、節分など)季節行事などを提供 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ禍にて施設外での活動はすべて中止。外出、外泊も中止としている。今年度はコロナ規制緩和にてゆっくりに無理のないところから交流も深めていきたい。 | コロナ禍のため、家族による外出・外泊は中止している。病院受診で外出する際は、職員が対応している。コロナ収束後、屋外での焼肉パーティー等を計画している。 | コロナ収束後、屋外での食事会開催に期待しません。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 認知症のため、所時は困難だが、個別対応にて購入希望により食材買い出し時に購入し、預かっている所持金より支払いもある。(所時しないと不安と思われる利用者様の方には、ご家族了解(紛失等)のもと所時して頂き、担当が時々チェックを行っている。) | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族に手紙を書かれる利用者様には、手紙を投函するなどの支援を行い、面会は窓越し面会にて実施。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | フロアや玄関に飾りをしたり、百神社として職員や利用者の方の思い、願いを書いた絵馬を飾り、1年後のとんどで焼いたり寒暖を伺いながら湿度計を基準に快適な空間が提供出来るよう配慮し、寒い時でも換気の協力をお願いしたりしている。 | 利用者が集う共有ホールには、大きなソファや季節の花が活けてあり、季節を感じながらゆったりと過ごせる空間となっている。また、車椅子の方でも入浴できる様、お風呂にリフトを付けたり、安全面や使いやすさに配慮して、トイレの扉をアコーディオンタイプにしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファやテーブル席など、思い思いの場所で仲良しさんとゆっくり過ごせるよう、また体調不良など身体面も考慮し居室で休んで頂いている方も一人ぼっちにならないように訪室や声掛けなど細やかに配慮し安全で安心出来る支援をしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご本人が好みのぬいぐるみ、母の日のプレゼント、写真などを展示したり、車椅子、ポータブルトイレをご自分で使用出来る方は位置を配慮したり衛生的に使用出来るようご自分の家、ご自分の部屋と思って頂けるようにしている。 | 個々に馴染みのぬいぐるみや写真等を持ち込んだり、レクリエーションで作ったぬい絵作品等を掲示しており、居心地良く自立した生活が送れるように配慮している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 歌や編み物を楽しまれている方やレクリエーションなど職員と一緒に一人ひとりに合ったレベルで楽しく参加して頂けるよう支援し、洗濯物たたみ、お盆を拭いて頂いたり、テーブル拭きやおしぼりを作って頂くなど出来る事を役割として無理のない範囲でして頂く。百で少しでも「私はまだ大丈夫」という気持ちを持って頂けるよう支援している。 | | |